

社会福祉法人宮城県社会福祉協議会 障害者支援施設 宮城県船形の郷
令和7年度 地域連携推進会議 議事録（要約）

開催日時	令和7年度10月24日（金） 午後1時30分から午後3時15分まで
開催場所	宮城県船形の郷 管理棟1階事務室2
委 員	利用者様代表 2人 利用者様ご家族代表 1人 地域住民代表 2人
施設職員	施設長、施設運営部長、生活支援各部長4人、リハビリテーション支援部長、医療支援部長、副部長1人、事業推進課職員3人 計12人

会議内容	
会議の趣旨説明	地域連携推進会議の目的について説明
施設の概要説明	施設概要について説明
船形の郷の状況	（１）生活状況 ＜利用者様代表から＞ ・毎日のご飯はおいしい。 ・日中活動を頑張っている。 ・YouTube を観たりして、毎日過ごしている。 ・旅行、買い物、ドライブなど、外出が楽しい。 （２）支援の取組み状況 現在の取組みとして、以下３点について説明 ①行動障害を有する方に対する支援体制の構築及び支援力の向上 ②リハビリテーション支援の実施 ③日中活動支援の充実 （３）事故報告状況、ヒヤリ・ハット状況 ４月から９月までの期間における事故報告及びヒヤリ・ハットの内訳など状況説明。
施設見学	居住棟及び活動棟の見学 ＜委員質問及び回答＞ Q 看護師の配置人数や通院時の付き添い対応について。 A 看護師の配置人数は８人であり、通院付き添いは職員が対応している。 Q 節電対策だと思うが、居住空間で照明が全点灯していない場所があった。 A 全面から採光が取れる設計となっており日中の照度について問題ない。
意見・質問等	＜委員意見＞ ・地域住民の方々が参加できる行事がなくなり、地域とのつながりが希薄になっているように感じる。行事等を通じて地域とのつながりが強まると良い。 ・こういった施設なのか、地域の方々の理解を得ることが、有事の際に協力を

	得ることにつながるのではないかと。また、若い世代や子供たちに声掛けし、船形の郷を分かってもらい必要があるのではないかと。 <施設回答> ・新型コロナウイルスの感染予防として、施設外の方々と交流しない対応をせざるを得なかった。 ・感染症法上５類相当への移行後は段階的に家族の面会や外泊等の条件を緩和している。 ・感染対策のために交流を絶っていた数年の間で、地域住民の方々の高齢化等の状況や入所している利用者の状況も変化しているので、地域との連携についてはご相談させていただきながら、新しい形で構築していきたいと考えている。 <委員意見> ・県立施設として、船形の郷の取り組みやノウハウを県内の民間施設に情報発信していければよいのではないかと。 <施設回答> ・県立施設として県内の支援者の資質の向上につなげる役割が求められている。 ・職員の資質の向上と支援の積み重ねを行いながら、船形の郷から外部に発信できるように取り組み始めたところ。 ・福祉セミナーでの船形の郷での実践の発信や民間施設の職員を対象とした実地研修の受け入れなど、職員も一緒に勉強する形で情報発信や研修を行っている。今後も職員全体の資質の向上を図りながら、県立施設の役割を果たせるよう取り組んでいきたい。
--	--